

IV 施策の展開

【基本目標1】

ライフステージに応じたスポーツ・レクリエーションの推進【する】

1 子どものスポーツの推進

(1) 学校体育の充実

学校体育の目標である「生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する」ため、すべての子どもが運動の楽しさを味わい、自分にあったスポーツを見つけることができるよう、授業の改善や教員の指導力向上に取り組んでいくとともに、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」などを参考にしながら、本市の子どもの運動能力や体力の状況を把握し、体力の向上に向けた取り組みを進めます。

中学生は、心身ともに大人へと成長する時期であり、健やかな体をつくりあげる大事な時期です。また体育の授業のほかに部活動に参加しながら、好きなスポーツを見つけて、仲間を作り、部活動を楽しむことが大切です。そこで、専門的な知識や技能を有する外部指導員を積極的に活用する等、部活動の充実を図ります。

(2) 社会体育の充実

近年の少子化や趣味の多様化等により、子どもたちが仲間とともにスポーツと触れ合う機会が減ってきています。特に中学生においては教師の労働時間やスポーツの専門性等の問題も影響し、部員不足や指導者不足となり、部活動に参加する生徒も減少傾向にあります。

このような状況を地域全体で補うため、各種スポーツ団体の育成を図りながら、市内4中学校全体で部活動と同様な活動に取り組めるよう地域スポーツクラブの創設について検討する等、社会体育の充実を図ります。

目 標

- ◎体力・運動能力等調査における全国・県平均値を達成する
- ◎部活動に取り組みやすい環境を整え、部活動に参加する生徒を増やす

【取組】

- ◇体力テスト等調査の実施により、児童・生徒の体力の実態を客観的に把握し、学校ごとにそれぞれの実態に即した「体力向上プラン」の作成を行う等、学校全体で継続的な体力向上の取り組みを進める。
- ◇小学校とスポーツ推進委員が連携しながら、学校体育施設を活用し、児童に軽スポーツを体験できる機会を提供する。
- ◇スポーツリーダーバンク（*P19参照）制度の整備・充実に沿ってPRを行い、種目に応じた専門的な知識・技能を有する外部指導員を積極的に学校へ派遣する。
- ◇市内4中学校全体で部活動と同様な活動に取り組めるよう地域スポーツクラブの創設について検討する。

平成28年度に実施された「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」による本市の児童・生徒の状況は次のとおりとなりました。

《平成28年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果》

■ は、全国・県より優れている数値
 ■ は、全国・県より劣っている数値

項目	小学校5年男子			小学校5年女子			中学校2年男子			中学校2年女子		
	全国	県	東金									
身長	138.82	139.10	139.26	140.05	140.18	139.26	159.90	159.81	160.14	154.83	154.90	154.62
体重	33.99	33.95	35.08	33.90	33.79	34.24	48.54	48.13	49.16	46.73	46.61	47.87
握力	16.47	16.41	17.00	16.13	16.08	16.31	28.91	28.91	28.36	23.75	24.10	24.28
上体起こし	19.67	20.51	19.92	18.60	19.72	19.50	27.46	28.61	26.67	23.48	25.03	23.17
長座体前屈	32.87	33.49	33.29	37.21	38.02	37.45	43.06	46.54	45.05	45.46	48.38	47.07
反復横とび	41.97	43.12	45.05	40.06	41.16	43.19	51.93	52.62	49.99	46.60	47.19	46.71
シャトルラン	51.89	54.83	56.26	41.29	44.78	46.87	86.24	88.17	80.98	58.80	62.35	60.46
持久走	-	-	-	-	-	-	391.72	385.27	426.10	288.51	281.85	266.03
50m走	9.38	9.29	9.03	9.61	9.51	9.32	8.03	7.87	8.02	8.83	8.63	8.61
立ち幅跳び	151.39	153.86	158.47	145.31	148.00	153.89	194.69	196.70	190.65	168.28	172.01	172.12
ソフトボール投げ	22.42	21.45	20.80	13.88	13.43	13.94	-	-	-	-	-	-
ハンドボール投げ	-	-	-	-	-	-	20.59	20.56	18.42	12.85	12.91	12.27
総合評価	53.92	55.04	56.51	55.54	57.01	58.34	42.13	44.35	40.46	49.56	52.42	51.06

☆小学生の体力・運動能力の水準は、男子女子児童ともに全国や千葉県平均を大幅に上回っている状況である。

☆中学生になると男子生徒は全国や県平均ともに下回り、女子生徒は全国平均は上回っているが、県平均は下回っている状況である。

2 成人スポーツの推進

働いている世代や子育て世代がスポーツ活動に取り組むことができるように、それぞれのニーズに合ったスポーツ大会やスポーツ教室のあり方を検討するとともに、スポーツの機会や環境の改善・整備を推進します。

目 標

◎成人市民の週1回以上のスポーツ実施率を50%以上とする
(現状：36%)

【取 組】

- ◇普段スポーツをしていない人でも気軽に参加でき、スポーツを始めるきっかけづくりとなるよう、関係団体と連携し、魅力あるスポーツ大会やスポーツ教室の開催に努める。
- ◇子育て世代が子どもと一緒にスポーツ活動を楽しめるように、体育施設に「ファミリーの日」等の無料開放日を設定し、スポーツに親しむ機会を提供し、継続的な利用につながっていくよう努める。
- ◇壮年期から中年期におけるスポーツ実施率が低いことから、仕事が終わってからもスポーツができるよう、夕方以降の時間帯の教室や運動プログラムを充実させるとともに、スポーツ施設の利用時間の延長について検討する。

3 高齢者スポーツの推進

高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加のきっかけづくりに寄与するため、スポーツ大会やスポーツ教室の開催等、高齢者も気軽にスポーツに取り組むことができるイベントの提供や環境の整備に努めます。

目 標

◎高齢者の週1回以上のスポーツ実施率を55%以上とする
(現状：45%)

【取 組】

- ◇運動が苦手だったり、参加に踏み切れない高齢者に対して、誰でも楽しめる初心者向けの軽スポーツやニュースポーツを紹介し、健康や体力の維持・増進だけの目的でなく、新たな仲間との出会いなど生きがいつくりの場となるよう参加を促進する。
- ◇関係機関や部署と連携し、体力増進・運動習慣を身に付けることを目的とした本市独自の「軽体操」を企画・制作する等、高齢者自らが自主的に取り組むことのできるスポーツの普及を図る。

4 障がい者スポーツの推進

障がいのある人が住み慣れた地域でいきいきと生活し、体力の維持増進を図る活動が継続できるよう、スポーツを始めるきっかけづくりやスポーツの楽しさを体験する等の環境整備を推進します。また関係機関や団体との連携・協力体制を構築し、障がいのある人への正しい理解と認識を深め、障がいのある人の社会参加を促進するための取り組みを支援します。

「スポーツアンケート」結果（P40～43参照）によると、障がい者スポーツに「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した市民は320名（45%）で、「関心がない」「どちらかといえば関心がない」と回答した市民285名（41%）を上回る結果となりました。

これは、パラリンピック等の国際大会がメディアを通して報道されていることや、インターネットの普及により、障がい者スポーツを見る機会が増えたことが主な要因であると思われます。

また、障がい者スポーツの関心が高まる取組として、「アスリートのプレーを間近に見る機会があること」と回答した市民が200名（28%）、「テレビなどで大会が中継されること」と回答した市民が141名（20%）で、「見（観）る」取組が全体の48%となりました。

目 標

◎障がい者スポーツ大会や体験会等を年2回以上開催する

【取 組】

- ◇関係機関や団体と連携し、障がい者アスリートが集うスポーツ大会や体験会等のイベントを開催し、障がい者スポーツへの関心を高め、応援する仕組みやボランティアに参加する仕組みづくりに努める。
- ◇スポレクデーをはじめ各種イベントにおいて、障がいのある人も参加できる種目を取り入れ、関係団体への参加呼びかけをしながら、拡充・定着を推進する。
- ◇スポーツ推進委員や障がい者関係団体を中心に、障がい者スポーツ指導者講習会等を受講し、障がいのある人から心身ともに信頼できる指導者の養成に努める。

5 ニュースポーツ等の推進

ニュースポーツや軽スポーツは誰もが簡単に行えるレクリエーション的要素のスポーツであり、特別な技術や体力を必要としないものであり、スポーツ推進委員が各種研修を受講し指導・普及に努めています。スポレクデー等の大会の開催をはじめ、指導者の派遣や用具の貸出し等、各地区やグループ単位での取り組みを支援しながらニュースポーツ等の推進に努めていきます。

目 標

◎ニュースポーツ等を紹介するイベントを年2回以上開催する

【取 組】

- ◇各地区から選出されているスポーツ推進委員による地区活動を通して、市民が気軽に楽しみ取り組むことのできるニュースポーツの普及・定着を目指す。
- ◇研修会等に参加し、新たなニュースポーツの指導技術を習得して、継続的にニュースポーツの情報発信に努める。
- ◇スポレクデー等のイベントを通じて、毎年新たなニュースポーツを紹介する。

【基本目標 2】

東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進【みる】

1 スポーツ・ツーリズム*の促進

スポーツイベント等と観光を組み合わせた「スポーツ・ツーリズム」は、新しい観光客誘致策として注目を集めています。

東京オリンピック・パラリンピックの開催に際し、成田空港や東京・千葉の大会会場に隣接する立地優位性と東金アリーナのメインアリーナや陸上競技場等の施設的な優位性を国内外にPRし、大会に参加する国や地域の選手団等の事前キャンプの誘致活動に取り組みます。

また、国内トップアスリートの大会やトレーニング地としての誘致活動にも取り組み、国内外から東金アリーナに多くの観光客・観戦客を誘致し、市の観光地や特産物等をPRし、地域振興を図っていきます。

目 標

- ◎東金アリーナ等で集客力のあるスポーツ大会を年1回以上開催する
- ◎東金アリーナに国内外トップアスリートの事前キャンプを誘致する

【取 組】

- ◇オリンピック関連施策担当の企画課と連携し、東京オリンピック・パラリンピック参加国の事前キャンプの誘致活動に取り組む。
- ◇千葉県スポーツコンシェルジュや市サッカー協会と連携し、プロサッカーチームの試合の開催、シーズン前や国際大会前のキャンプ地として誘致活動に取り組む。
- ◇市観光協会や関係機関と連携し、東金アリーナ等に訪れた観光客や観戦客に市の観光地や特産物をPRする。

2 スポーツ人口の拡大

東京オリンピック・パラリンピックの開催によるスポーツ熱の高まりをバネにスポーツ人口の拡大を図ることで、健やかで活力あるまちづくりをPRします。特に小学生から大学生までの学生世代においては、開催を契機に国際感覚を身に付け、市民活動の活性化を促進させます。

目 標

◎東金アリーナ等でスポーツを身近に感じられる市民参加型スポーツ大会を年1回以上開催する

【取 組】

- ◇事前キャンプ参加選手等の協力を得て、次世代アスリート育成のための技術レッスン等を実施する。
- ◇スポーツへの関心を高めるため、アスリートとの交流事業や観戦事業を実施し、広く市内外に発信し、市民間交流を図る。

3 トップアスリート育成事業の展開

多感な子ども時代に世界の舞台で活躍するトップアスリートと出会うことにより、スポーツに対する興味・関心や、未来のトップアスリートを目指すきっかけづくりにつなげていくために、トップアスリートを招聘し、学び・触れ合い・体感できるイベントを提供していきます。また、トップレベルの大会を地元へ誘致し、試合を観戦することによって、スポーツを「みる」楽しさや素晴らしさを体感し、「する」喜びにつなげるような機会を創出します。

「スポーツアンケート」結果（P 39～40参照）によると、アスリートの育成が、市のスポーツ振興につながると「思う」「どちらかといえば思う」と回答した市民は450名で、全体の64%となりました。

また、アスリート育成につながる事業として、最も回答が多かった事業が「プロアスリート等による実技指導や講習」で220名（31%）、次に「子どもたちにとって目標となる大会や競技の開催」で189名（27%）となりました。

目 標

◎トップアスリートを招聘し、講演会や実技指導をいただく参加型イベントを年2回以上開催する

【取 組】

- ◇トップアスリートを招き、講演会やスポーツ教室を開催し、市民とのふれあいや夢や希望を育む機会を創出するとともに、本市のジュニア競技者の技術向上意欲を喚起する。
- ◇東金アリーナ等にトップレベルの大会の開催を誘致し、スポーツ観戦を通じて楽しさや素晴らしさを体感しながら技術を習得する機会を創出する。

4 スポーツ情報の充実

本市のスポーツ情報の発信は、市のホームページや広報紙、または東金文化・スポーツ振興財団のホームページ等で、スポーツ大会やスポーツ教室の開催等「する」スポーツの情報を中心に提供してきました。今後は、多様化する住民ニーズを捉えて、スポーツイベントを観戦・応援するといった「みる」スポーツや、ボランティア・指導者の派遣等の「ささえる」スポーツの情報も積極的に提供していきます。

また、本市にゆかりのある選手や市民が身近に感じられる児童・生徒の活躍等の情報も提供していきます。

目 標

◎「広報とうがね」「生涯学習情報誌ときめき」「市ホームページ」を活用し、スポーツイベントを観戦・応援する「みる」スポーツ情報を積極的に提供する

【取 組】

- ◇本市にゆかりのあるアスリートやチームの存在および成績や活躍状況等に関する情報を市民にPRし、応援しようという機運の醸成を図る。
- ◇市内中学校や高校の部活動の状況を市民にPRし、大会等を観戦しようとする機運の醸成を図る。

【基本目標 3】

スポーツ体制の支援・充実の促進【ささえる】

1 スポーツ団体への支援

市民がスポーツをより身近に感じ、様々なスポーツを楽しむことができるよう、東金市体育協会をはじめとするスポーツ関係団体が相互に連携し、スポーツ施策の推進体制を強化していきます。

また、市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりを目指し、地域のスポーツ関係団体を育成するとともに、その支援に努めます。

目 標

◎スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの新たな結成や活動支援のための補助・支援制度を創設する

【取 組】

- ◇総合型地域スポーツクラブが、地域住民のスポーツ活動やスポーツを始めるきっかけづくりの場として定着し、スポーツ振興の一翼を担う活発な活動に取り組むことができるよう支援する。
- ◇スポーツ少年団の新たな結成や活動を支援するとともに、指導者資格の取得やレベル向上のため、認定指導者研修会への参加等も積極的に推進する。
- ◇市民スポーツの裾野を広げ、多くの市民がスポーツに親しむ機会が得られるよう体育協会の活動を支援する。

2 スポーツ指導者・ボランティアの確保と育成

市民がスポーツ活動を始め、継続していくためには、スポーツ指導者の存在が不可欠なものであり、スポーツ活動を支える指導者の育成・支援に努めます。また、近年、「ささえるスポーツ」が注目されていますが、この役割を担うスポーツボランティアを募集し、研修機会の提供や活動体制の整備に努めます。

本市のスポーツリーダーバンクへの登録者数は年々減少している状況であるため、スポーツリーダーバンク制度のPRを図り、登録者の増員に努めていきます。

目 標

- ◎東金市スポーツリーダーバンク登録指導者を25名以上とする
(現在：15名)
- ◎東金市スポーツボランティア制度を創設する

【取 組】

- ◇各種スポーツにおけるニーズの多様化・高度化に伴い、障がい者スポーツを含めた質の高いスポーツ指導者を発掘し、確保していくとともに、市民の要請に応えられるよう指導者の養成に努める。
- ◇スポーツボランティアの趣旨に賛同する協力者の募集や派遣の制度を整え、体育協会やスポーツ推進委員と連携した活動の場を創出し、各種スポーツイベントへのボランティア参加を推進する。

《スポーツリーダーバンク登録状況》

(平成29年4月1日現在)

種 目	登録指導者数	種 目	登録指導者数
ソフトボール	1	硬式テニス	1
陸上競技	2	ミニバスケットボール	1
バレーボール	2	軽スポーツ	1
剣 道	1	スポーツ吹矢	1
ゴ ル フ	2	3 B体操	1
空 手 道	2		
計		11種 15名	

3 スポーツ施設の整備と利用促進

本市においては、指定管理者制度を導入し、スポーツ施設を指定管理しているところであり、指定管理者が持つ「柔軟性・弾力性」という特性を活かし、市民サービスの向上と効率的な施設の管理運営に努めます。また、利用者からの意見にも真剣に受け止め、施設の整備や使いやすさを常に追及し、さらなる利用の促進を図ります。

なお、年間の各スポーツ施設利用状況はP49をご参照ください。

目 標

◎年間のスポーツ施設利用者人数を25万人以上とする
(現在:22万人)

【取 組】

- ◇誰もが利用しやすい施設とするため、施設の予約方法について、現行の来館・抽選による方法からWEB上で予約できるシステムの導入について検討する。
- ◇市体育施設を車椅子やベビーカーでも利用できるようスロープの設置や駐車場の確保に努め、トイレや洗面所等も障がいのある人や高齢の人を含む誰もが使用しやすく安全に利用できる施設のバリアフリー化に努める。

4 学校施設開放の推進

本市においては、市内小中学校の学校体育施設の一般開放を行い、小中学校と連携を図りながら、施設開放の充実に取り組んでいます。

市内学校体育施設利用状況はP51をご参照ください。

今後は、多くの市民が身近なスポーツの場として活用でき、また各学校に適した学校施設開放事業となるよう、利用団体と学校間が自主的にスケジュール調整や運営等が行えるよう検討します。このことにより利用時間の拡大や細分化、また祝日等の利用についても柔軟に対応することが可能となります。さらに利用団体間の連携も生まれ、急遽使用しなくなった空き時間やスペース等があった場合には、互いの連絡調整により効率的に利用することができます。

目 標

◎年間の学校施設開放の利用団体を120団体以上とする
(現在:115団体)

【取 組】

- ◇学校施設開放事業の円滑な運営方法やルール作りを自主的に行っていくため、各学校施設利用団体と学校で組織された「運営委員会」の設置について検討する。
- ◇学校施設開放事業に関し、学校に迷惑のかからないよう小破修理や簡易修繕に係る費用を担当課で予算化し、破損等に迅速に対応できる体制を整える。

V 点検評価

1 計画の進行管理体制

本計画の進行管理については、東金市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）が行います。

年間事業計画に基づき、基本目標ごとに定めている目標値や達成熟度を中心に、それぞれの取組についての実施状況や効果等について、庁内関係各課との情報交換も含めスポーツ振興課が整理し、毎年度の進捗状況について審議会に諮ります。審議会は、これらの状況を確認し、必要に応じて改善や評価などを教育委員会に提言します。

2 計画の進行管理と評価

本計画を進行管理していく上で、基本目標ごとの目標値を中心に達成状況を毎年度把握し、その取組について評価を行います。

その評価に基づき、施策や事業についての見直しや改善について検討し、次年度以降の事業計画に反映させるとともに、効果的な取組につなげていきます。

このような「P D C A」サイクルでのマネジメントを行い、各年度の継続的なチェックにより、計画や具体的な取組の質の向上を図ります。

